安徽省・江蘇省視察報告

ERINA 調査研究部研究員
南川高範

10月14日から10月18日にかけて安徽省滁州市と江蘇省揚州市、南京市をそれぞれ視察した。また当該地域の経済の特徴について、現地の研究者である滁州学院経済・管理学院講師王磊氏に聞き取りを行った。視察の対象とした都市のうち、滁州市は比較的経済規模が小さく、揚州市、南京市はそれぞれ経済規模も発展の度合いも進んだ地域である。2013年時点の統計情報で見ると、所得水準を示す一人当たり付加価値生産額は、滁州市はドル換算で4435ドル、揚州市が11747ドルで、南京市が15819ドルと大きく異なる。面積は滁州市がもっとも広く1万3523㎢で、揚州市が6634㎢、南京市が6582㎢であり、人口は、南京市が多く818.8万人であるのに対して、揚州市と滁州市の間には大きな差はなく、滁州市が449.5万人、揚州市が447.0万人である。面積が大きく経済規模が比較的小さい、滁州市と面積が半分ぐらいでありながら、経済規模が

大きい揚州市、南京市について、そうした特徴の背景を調査してきた。

現地研究者王氏の話によると、江蘇省も安徽省も明代までは、商業の栄えた地域であったものの、清代に一旦その勢いが途切れ、この二つの地域の発展は現代に至るまでに大きく差が生まれたとのことである。中国で優れた商人の集積地であることを意味する商帮という言葉があるが、広東省、安徽省、山西省、浙江省、江蘇省の5つが代表的な商帮とみなされていた。このうち、安徽省、山西省は沿海地域から国境防衛地域に塩を販売するという形態の商業により発展したとする歴史があるが、清代以降経済発展を支えるような産業に恵まれていないというのが現状である。沿海地域も明朝時代に貿易で栄え、中華民国時代にいったん衰退するものの、新しいものを積極的に取り入れるという地域性も助けとなり、現在に至る発展を支えているとしている。特に浙江省は、先端技術（中国語では高新技術）を要する製造業やインターネットの分野で、ビジネスモデルや経営管理の面に新しいものを取り入れることで栄えているとのことである。

今回調査の対象としたのは、江蘇省の中でも比較的経済発展が進んでいる蘇南（江蘇省の南部分の意味）と呼ばれる地域であり、南京、蘇州、無錫、鎮江という地域が含まれる[1]。この蘇南地域は、沿海地域の発展している省の中では、比較的保守的な地域であるとされ、安徽省などに比べると、工業の発展は見られるものの、浙江省や広東省と比べると、高新技術やイノベーションの面で後塵を拝している。江蘇省の経済の中心地は、省都である南京市と蘇州市であり、これらの地域は、比較的先端的な技術を用いた製造業への投資が盛んであるとのことであるが、それと両輪をなして観光産業が経済を支えているという特徴を持っている。江蘇省だけで複数の世界遺産を有しており、ある区域では古い景観を残しながらも、別の区域では、先進国の百貨店と遜色ないサービスを提供する新しい商業施設が存在している。

一方で安徽省の滁州市は、南京からの距離が近く、南京の駅から高速鉄道に乗ると20分程度で移動できる地域である。この大都市への近接性という利点を生かして、住宅建設を進め、人口増加を図る計画があったものの、思うように南京からの移住は進まなかったという。その理由の一つとして、南京住人の保守的な気質や、滁州市側の優位性が住宅価格の相対的な安さにしかないことが挙げられるという。これは現地の商業施設においても確認したことであるが、滁州市は、南京や揚州と比べても、レストランや衣服などの消費にかかる費用が必ずしも安価ではなく、また高速鉄道の値段も毎日の通勤に使えるほど安価なわけでもない。

江蘇省揚州市にある世界遺産［個園と呼ばれる個人庭園］

（出所）筆者撮影

こうした滁州市の現状に鑑みて、前述の王氏は、人口増加を促すと共に産業の誘致も大きな課題であると指摘しており、政策の一例として蘇滁現代産業園の事例を挙げた。これは、蘇州にある工業団地を運営する集団企業が、新規に滁州に工業団地を建設し、工場等の誘致を計画しているものであり、現在工業団地自体が計画中である。しかし住宅建設の際と同様、工業団地の企業誘致においても、滁州市に生産を移転する利点が工場建設の安さにしかないという。このことから建設費用以外のどのような部分において、企業に利点を提示できるかが課題であるとしている。

最後に、これら三都市における商業施設の現状を調査したところ、前述のように滁州市と南京、揚州市でさほど価格帯が変わらないという興味深い結果が得られた。調査対象としたのは、中国全体を市場として商品供給を行うナショナルブランドの商品ではないものであり、それぞれの年でそれぞれの商品の市場が形成されている衣服やレストランなどの財・サービスである。経済理論に則って説明する場合、価格は購買力等などを基調とする需要の高さの要因と、より安価で多くの商品を供給できるかという生産性を基調とする供給要因に分類される。滁州市の商業施設の人の往来や立地、一人当たり付加価値額などから見る購買力を比較すると、揚州、南京と同程度に旺盛な需要があるとは考えづらいため、揚州、南京はより高い生産性と競争の作用により、滁州に比べて旺盛な需要に対して、同程度の価格で応ずることができるという背景があるのではないかと考えられる。この生産性や競争の度合いの差は、家計に対しては、生活費用の高さ、企業に対しては、生産費用の高さに現れ、結果として移住者の誘致や企業の誘致の際に課題となる部分であると考えられる。かつて塩の販売という立地を生かした商業により発展した背景を持つこの地域において、研究開発や投資による生産性の向上という自らの手による経済発展を重要視する考え方への転換が、最も必要とされていると考える。

[1] 江蘇省には、このほかに連雲港、徐州、塩城、淮安などの蘇北と呼ばれる地域がある。